

# 追加70万の署名を国会提出!

## ～移植医療体制拡充の請願～

# 全国協議会 ニュース

発行所  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒130 東京都墨田区  
東駒形1-16-7  
第1ホークプラザ303号  
TEL.(03)3625-7307  
発行責任者  
運営委員長 渡辺孝一

中郵便振替口座中  
00150-4-15754  
(変更になりました。御注意を)  
中銀行口座中  
さくら銀行 新宿支店  
普通 5666655

昨年五月「骨髄移植医療体制の充実と拡充を求める請願」署名、百七十万分を衆参両院に提出しましたが、今年五月二十四日、追加として残り七十万名分の署名を国会提出しました。

今回の署名提出は昨年全国から集った署名の残余分、衆議院議長、参議院議長あて、各七十万名分です。

五月二十四日午後、東京の会を中心に神奈川・埼玉のボランティア約十名が参加しました。

今回の提出には、昨秋結成された「骨髄バンク推進議員連盟」と「骨髄バンクを応援する若手国会議員の会」に参加している国会議員に紹介議員となってもらい実施したものです。

昨年の署名提出から一年が経過しての提出は、政界の混乱や阪神大震災等重大事件の発生で遅れていたものですが、この一年間に請願趣旨である「骨髄移植医療体制の改善」はほとんど進展を見せていません。改めて一年経過後の提出は、極めて意義のある時期となりました。



土井たか子議長に署名を提出する渡辺委員長、中央は紹介議員の石田祝徳氏(5月24日議長公邸で)

昨年より患者とドナーの適合率は飛躍的に上昇し、バンクによる移植例数も月間三十例ほどが実施されるようになりました。その一方で、ドナーを得なから待機する例も増え続け、待機期間中に病状悪化で移植中止や死亡する患者も続出するという最悪の状況となって来ましたが、どうしても医療体制の整備を急がねばなりません。

今回の署名提出に際しては、衆議院議長公邸を訪れて、直接土井たか子議長に署名簿を渡し、陳情する機会もありました。席上、土井議長は事態の深刻さを認識され「厚生委員長にも私から話して、審議して行くようにしましょう」と尽力を約束してくれました。

今後は国民運動としての「センター設立運動」と合わせ、国会審議や行政への働きかけをより強くして、医療体制整備のために全国のボランティアが力を合わせて行かなければならない時期ではないでしょうか。

## スチュワーデスも 骨髄バンク支援

五月の雨の月曜日、五島さんの絵ハガキを八百組以上購入頂いた縁で全日空さんへ取材におじゃましました。

雨に煙る羽田空港の滑走路を離陸する飛行機の見える客室部のオフィスには、制服姿のスチュワーデスさん達がそこかしこでフライト前の打合せでこたえ返す、取材に当たった私達は圧倒されてしまいました。(客室部はスチュワーデスさん達の所属する部署で総勢約一七〇〇人だそうです)

今回の絵ハガキ購入に当たっては、全日空の社会貢献の一環として地域活動や社会福祉活動への参加、支援等様々なことを行っている客室部のボランティア委員会が、二月にボランティア募金として購入を呼びかけたものです。女性が圧倒的に多い職場で、「きれい」と評判が高く、前述の枚数の注文があったとのことでした。

もともと全日空では、社員の一人が発病し、助ける会として活動していたそうで、その下地は十分でした。

全日空では今年度からボランティア休暇が制度化されたことを受け、フィランソロピー委員会では、今年度の募金活動の対象として骨髄バンクを予定して下さること、当協議会も全面的な協力を約束しました。

約一時間の取材時間は、お話しして下さった方の明るい笑顔に私達にはあっという間に感じられました。(木村記)



取材に協力頂いた篠原さん(左)、平石さん(右) 役得、役得の笠原編集長(左端)、木村記者(右端)

## 全国協議会 「総会」案内

全国協議会は今年設立満五周年を迎え、四月には名古屋で五周年記念事業を開催しました。

現在の体制となつて満五年という節目にあたる第六回通常総会を左記の通り予定しています。

全国よりボランティアの皆さん

の参集をお願い致します。

「全国骨髄バンク推進連絡協議会・第六回通常総会」

●平成七年六月十八日(日)

●東京・渋谷区勤労福祉会館

※午前十一時より全国代表者会議・総会は午後一時から

## 骨髄バンクの最新情報をお知らせする——骨髄バンクNOW

### ★PC-VANに情報掲示

4月から、パソコン通信PC-VANの掲示板に、骨髄バンク情報が提供されるようになりました。

### ★地区普及広報委員の公募

全国8ブロック(各ブロック3~6名)で、骨髄バンク事業の普及啓発を推進する、「地区普及広報委員」の公募が開始されます。

「バンクニュース」に募集告知が掲載されるほか、厚生省を通じてマスコミに情報提供することにより、広く呼びかけられるものです。

### ★日本骨髄バンクニュース発行

6月1日付で第6号が発行されます。今回は8ページ、全ドナー登録者に日本

赤十字等の協力で郵送されます。7万通ほどの封入作業は関東地区ボランティアのご協力で東京にて行われます。

[4月末現在検査済ドナー登録者 63,524人]

[4月末現在患者登録者 2,962人]

[4月末現在移植件数 381件]

(4月末現在)

★骨髄バンクへのお問い合わせは★  
フリーダイヤル0120-377-465



日本生まれ。日本育ち。



育ての親は、あなたの町。

その土地で生まれ、その土地で育つコンビニエンスストアです。各地域の良さを活かしながら成長をしているのがファミリーマート。店舗のオーナーさんやお客様の声を反映していくことがあったかいサービスにつながっていくんですね。日本で生まれたコンビニエンスストアだからこそ、キメ細かなサービスができるのではないのでしょうか。

FamilyMart

# 狭いスペースに 人と機械の熱気でムンムン ＝財団事務局訪問記＝



写真①

財団事務局の様子を紹介しよう、ということ、雨のちよつと激しく降る五月十五日の午後、事務局を訪問しました。  
財団事務局は、地下鉄丸の内線・新宿御苑前駅から徒歩に出たそばの小川ビルの四階(関東事務局が二階)にあります。  
外は肌寒い感じでしたが、ドアをあけると一五〇㎡ぐらいの



写真②

事務室は、職員と事務機器の熱気につつまれ、思わず上着をぬぎました。  
対応してくれた野田事務局長は、「酸素不足なんです。狭くてゴチャゴチャしていて、すごいでしょ。電話が多い日は、大変な騒々しさですよ」と。次々にかかってくる電話に、事務局長はほとんど立ったままで対応し

ておられました。  
スタッフの配置を写真で紹介すると、(写真①)の手前が庶務経理部(四人)、奥が業務部(七人)、右奥が募金部(二人)と調整医師の席です。(写真②)の奥がボランティアのスペース(四人)、左が事務局長と広報渉外部(二人)。写真をとっている私の後ろに常任理事の机があり、合計二名分の机が並んでいます。  
東内常任理事は、「コーディネーションも増え、皆さんに遅くまで残業してもらっています。財政面も大変きびしい。職員ももっと増やしたいのですが」と現状を語ってくれました。事務局長は、「今のスタッフでは各地のイベント等の派遣にも応えきれない。九月に始動予定の地区広報委員会に期待もっています。」と今後の展望の一端を語ってくれました。(笠原記)

場において、関東学院大学のちを支える会の学生諸君と共に骨髄バンクのPR活動をした。  
ステージでは看護学校生の手話コーラス、クイズゲーム、展示コーナーでは各病院のナースが描いた絵画が目を引き、ふれあいコーナーではアルコールアレルギーチェックと体脂肪測定に行列ができていた。腎、アイ、骨髄バンクのカウンターにも看護学校生を含め、多くの人が関心を寄せて話を聞きに来てくれた。神奈川県、横浜市の行政側



## 各地のたより

各地のたよりを  
写真を添えて  
お寄せ下さい。

### 長野 佐久総合病院祭 内科テーマは骨髄バンク

長野県で唯一、成人への骨髄移植を行っている佐久総合病院。地域医療に情熱を持って取り組んでいる事で有名なこの病院は、病院祭もまた、地域の祭りと同時間開催。毎年二万人が訪れるというほどです。今年は五月二



### 福岡 セーラムーンも登場!! 赤十字フェスティバル

ゴールデンウィーク最終日の七日福岡市の市役所西広場で日赤県支部主催の'95赤十字フェスティバルが開かれ九州骨髄バンクもテントの一つをお借りし



市民の皆さんに骨髄バンクをPRしました。福岡市の中心天神という場所にも恵まれ、また、ステージでは人気アニメのセーラムーンショーなどのイベントも行われましたので小さなお子様連れの家族で大変賑わいました。バンクには十名余りのボランティアの方が参加され、ドカベン、ティッシュを利用したくじで風船や子供さんの喜ぶ品物を揃え、多くの家族の方に私たちのテントを訪れていただきました。また、スタンプラリー四ヶ所の一つになっていたの

### 神奈川 看護フェスティバルの一日

五月六日より十四日まで、かながわ看護フェスティバルが開催され、県内九つの会場において「看護」をテーマに様々なイベントが繰り広げられた。七日の日曜日に、横浜そごう地下広

場において、関東学院大学のちを支える会の学生諸君と共に骨髄バンクのPR活動をした。  
ステージでは看護学校生の手話コーラス、クイズゲーム、展示コーナーでは各病院のナースが描いた絵画が目を引き、ふれあいコーナーではアルコールアレルギーチェックと体脂肪測定に行列ができていた。腎、アイ、骨髄バンクのカウンターにも看護学校生を含め、多くの人が関心を寄せて話を聞きに来てくれた。神奈川県、横浜市の行政側

ドカベン、ティッシュをくじ、くじで風船や子供さんの喜ぶ品物を揃え、多くの家族の方に私たちのテントを訪れていただきました。また、スタンプラリー四ヶ所の一つになっていたの



中から十名(患者六名、ドナー四名)に出席して頂き、様々な体験を語ってもらいました。それぞれが生命と正面から向き合った方たちのお話で、会場は感動の渦で包まれました。ちなみにこれまでメッセージを寄せられた患者さんは二十二名、その中には亡くなられた方や現在入院中の方もおいでになります。出席された六名はいずれも移植を終え、社会復帰した方たちで全国各地からおいで下さったものです。

「温泉水スクラブ」  
参加者募集中  
血液疾患の患者が中心となっているフェニックススクラブでは、左記の要領で温泉水ツアーを企画し、参加者を募っています。患者とその家族であれば誰でも参加できそうです。

全国協議会同様に、公的骨髄バンクを支援する東京の会も今年に設立五周年。去る五月十三日には総会を開催し、新年度の活動への取り組みを決定しました。  
当日は議事終了後「あけて、もらって、ありがとう」と題する記念座談会を開催しました。この座談会は会報・東京の会通信に連載している患者とドナーのメッセージに寄稿された方

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日胃カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すぎた春、単身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩惱、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まつ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。

連合通信社  
「健康」 私たちは知っています。  
東京法規出版は、みなさまの健康づくりにお役に立つためのパンフレット、書籍、パネル、ビデオの企画・制作やグッズの販売、セミナーの企画運営を行っています。  
〒110 東京都文京区白山一丁目7番6号 電話 03-3814-3851

「健康」 私たちは知っています。  
東京法規出版は、みなさまの健康づくりにお役に立つためのパンフレット、書籍、パネル、ビデオの企画・制作やグッズの販売、セミナーの企画運営を行っています。  
〒110 東京都文京区白山一丁目7番6号 電話 03-3814-3851

心からのご寄付を  
ありがとうございました  
4月21日～5月20日まで  
清水透 現金 200,000  
アサヒビール㈱企業文化部 切手 17,367  
匿名 切手 117  
匿名 切手 2,448  
紀南地協 現金 48,038  
阿原一良 現金 10,000  
川越まゆみ 切手 315  
菊池清香 切手 2,737  
東京大森ロータリークラブ 現金 30,000  
神奈川骨髄移植を考える会 現金 100,000  
(円覚寺ピアノ三重奏の夕べ)  
(敬称略)  
活動資金の援助をお願いします  
銀行口座  
さくら銀行 新宿支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
全国骨髄バンク推進連絡協議会